

# 生活に生かす力を育てる 家庭，技術・家庭科の学習

- 生活者意識を育てる学習展開の追究 -

家庭，技術・家庭科研究会議

山岸 薫<sup>1</sup>

田中 美智代<sup>2</sup>

三浦 和弘<sup>3</sup>

野田 まなみ<sup>4</sup>

## 要 約

科学技術の発展は，高度情報通信社会の進展や生活環境の著しい向上をもたらした。これに伴い子どもたちの生活環境も大きく変化し，直接，家の仕事にかかわる機会や時間が少なくなり家庭，技術・家庭科の学習を実際の生活の場に生かすことができにくい状況になっている。

そこで今回の学習指導要領では，学習展開の中に実際の生活を意図的に取り込むことにより，学習の成果を生活に生かすことができるよう改善が図られた。

本研究会議では，生活を営む上で生じる様々な課題を解決する手立てとして，追究場面を大切にした課題追究学習を行うこととした。この学習の中で，家庭や生活での振り返りや意見交流を多く取り入れることで，生活と教科学習のかかわりだけでなく，主体的な判断をして課題を解決する学習の必要性を感じ，自分の生活をよりよくしようとする生活者意識が育ち，生活に生かす力につながると考えた。そこで，教師の助言の在り方や家族とのかかわり，学習の導入段階での働きかけに視点を置き授業を検証した。

学びが実生活の中で実践されることにより，子どもは達成感や成就感をもつことができた。さらに家族の一員としての役割を実感し，次の学びの意欲へとつながっていた。また，ものや技術が生活に果たす役割について理解させることにより，学習への意欲が高まっている姿も見られた。

生活を意識した課題追究学習を積み重ねることで，子どもたちの生活者意識がはぐくまれ，学びが実際の生活に生かす力となることが分かった。

キーワード：家庭科，技術・家庭科，生活環境，生活者意識，課題追究学習

## 目 次

主題設定の理由	118	5. 検証授業	121
研究の内容		(1)技術・家庭科家庭分野	121
1. これまでの		(2)家庭科	126
課題解決型の学習の課題	119	(3)技術・家庭科技術分野	129
2. 生活を意識した課題追究学習	119	研究のまとめ	
3. 研究の仮説	119	1. 研究の成果	131
4. 研究の方法	120	2. 今後の課題	132
(1)研究の対象	120	参考文献	132
(2)研究の進め方	121	指導助言者	132

<sup>1</sup>川崎市立南生田中学校教諭（長期研修員）

<sup>2</sup>川崎市立片平小学校教諭（研修員）

<sup>3</sup>川崎市立南菅中学校教諭（研修員）

<sup>4</sup>川崎市立白山中学校教諭（研修員）

## 主題設定の理由

家庭、技術・家庭科の学習対象である生活や科学技術は大きく変化し、生活の複雑化多様化が進み、快適な生活を送ることができるようになってきている。中央教育審議会答申「少子化と教育について」<sup>1)</sup>や平成13年度文部科学白書「豊かな人間性の育成を目指して」<sup>2)</sup>等では、子どもたちの生活の大きな変化や、衣食住に関する生活体験をする機会の減少だけでなく、消費文化の中で生活している子どもたちにとって、日常生活の中で生活体験の必要性を感じる機会の減少についての報告がなされている。

生活を学習対象としている家庭、技術・家庭科教育では、これまでも「日常生活に必要な基礎的な知識と技能を習得する」「家庭・社会とのかかわりについて理解を深める」「進んで生活を工夫し創造する能力を育てる」を重点として学習が進められてきた。

しかし、学習が領域で構成され目標や時間数が決められ、学習が個々に進められており、教師は学習を通して身に付けさせたい力を、指定されている題材を教えることで子どもたちに自然に身に付くものであるととらえがちであった。また、子どもの中にも学習と実生活を関連させて考え、学習したことを実生活で実践しようという意識が育ちにくい現状にあった。

今回の学習指導要領では、社会の変化に主体的に対応できる人間の育成のもと、実際の生活を意図的に取り込み子どもたちに生活を意識させながら、学習したことを自らの生活に積極的に生かす学習内容を展開していく中で、生活に必要な基礎的な知識と技術（小学校では技能、中学校では技術。本文中では以下技術とする）を確実に身に付け、子どもたちが主体的に生活の自立を図ることを目指すことになった。すなわち小学校家庭科では、家族との触れ合いや家庭生活に関心を持ち、自分と家族とのかかわりを考えることが重視された。また、中学校技術・家庭科では、生活に必要な知識や技術を生活と結び付けて学習する中で、実際の生活に生かすことができるように内容の改善が図られた。そして、子どもの状況に応じて生活を総合的にとらえながら各学校で創意工夫した題材を設定することや、指導計画を作成することが求められている。

本研究会議ではこれまでの題材観や授業観を見直し、子ども自身が学びの必要性や楽しさを感じ学んだことを生活に生かす力、すなわち、生活に生きて働く力を育てることが大切であると考えた。

そこで、生活を意識した教師の言葉かけと、授業を通した生活に生かす力の育成について研究することとし、主題を次のように設定した。

### 生活に生かす力を育てる 家庭、技術・家庭科の学習

また、子どもが日常生活の中で生活に対する意識が薄れ、生活体験をする機会も減少している現状を考えたとき、人やものとかかわり工夫しながら生きている生活者意識を育てていくことが大切であると考え、副題を次のように設定した。

### 生活者意識を育てる学習展開の追究

<sup>1)</sup> 第2章少子化が教育に及ぼす影響 2000年4月中央教育審議会答申

<sup>2)</sup> 第1部21世紀の教育改革第2章第1節子どもたちの状況 平成13年度文部科学白書

## 研究の内容

### 1. これまでの課題解決型の学習の課題

これまで多くの先行研究において、課題解決型の学習に関する報告がなされている<sup>3)</sup>。その中で課題となっていることは、子どもたちの学習が表面的な理解で終わり、学びの深まりや高まりが見られないことや、子どもたちが学習指導要領に基づいた課題を設定するまでに至らないことが挙げられている。また、いろいろな教科等で課題解決型の学習が進められていることにより、発表のための準備の時間が多く必要となり、子どもが負担に感じるが多くなっている。

そこで、家庭や生活での振り返りや意見交流を学習過程に多く取り入れ、生活を営む上で生じる課題に対して、主体的な判断をして課題を解決することが必要であることに気付かせ、学びを深めることができる課題追究学習を通して生活者としての意識を育てたいと考えた。

### 2. 生活を意識した課題追究学習

学習指導要領の改訂により、教科の目標の実現を目指し、各項目に示す事項の有機的な関連を図り総合的に展開されるよう、教師が題材を意図的に工夫できるようになった。すなわち、教師が学習を進める中で、生活と学習の相互の関連を図るよう働きかけることで、子どもたちは学習への関心を高め自ら課題意識をもち、自分なりに考え生活を工夫・改善しようという意識が生まれる。さらに、学習したことを実際の生活に生かし、家族や周囲の人々に励ましや賞賛の言葉をもらうことで子どもたちは達成感や成就感を味わい、学習することの必要性を実感することになる。このような生活を意識した課題追究学習を繰り返すことにより、変化する社会の中で生活上の問題に出会っても、主体的に問題を解決しようとする力を身に付けることができると考えた。

### 3. 研究の仮説

子どもたちが生活体験の中で学んでいることは、子どもの家族構成や家庭、地域の状況によって様々であり、中央教育審議会答申<sup>4)</sup>や国民生活に関する世論調査<sup>5)</sup>でも、親の子どもに身に付けさせたい「生活技術」に対する意識が多様化している現状が見られる。また、日本家庭科教育学会・家庭生活についての全国調査の結果<sup>6)</sup>では、家庭科の学習後「できるようになったこと」「分かるようになったこと」「気付くようになったこと」について「ある」と感じる子どもが、過去20年間の間で減少している。さらに、衣食住に関する日常生活の中での問題解決場面において何を大切にしたいかという意欲について、「人の助けをかりること」「目標を立てること」の重視度が低いことが指摘されている。

本研究会議では、家庭科の21世紀プラン<sup>7)</sup>に提示されている「家庭科教育で育てようとする能力」13項目の中から、「自立できる衣食住に関する生活技術」「問題解決の実践能力」「手を動かして生活に必要なものを作る能力」の3項目に焦点を当てた。そして、これらの能力を育てるためには、学習課題と生活を関連させて考える追究過程を大切にしたい学習が有効であると考え、仮説を次のように設定した。

---

<sup>3)</sup> 「生徒の主体的な学習活動を進めるための学習指導計画の作成と指導法の研究」

川崎市総合教育センター研究紀要第11号 1998年 p65

<sup>4)</sup> 第4章教育面から少子化に対応するための具体的方策 2000年4月中央教育審議会答申

<sup>5)</sup> 内閣府「子どもに身に付けさせておくことが大切なこと」 2001年9月

<sup>6)</sup> 日本家庭科教育学会「家庭生活についての全国調査の結果」 2002年3月

<sup>7)</sup> 日本家庭科教育学会「家庭科の21世紀プラン」 家政教育社 1998年 p249

子どもが生活を意識できる課題追究学習を展開することにより，生活者意識が生まれ，実際の生活に生かす力が育っていく。

そこで，課題追究学習のながれを，図1の「生活に生かす力を育てる学習の構想図」として考えた。

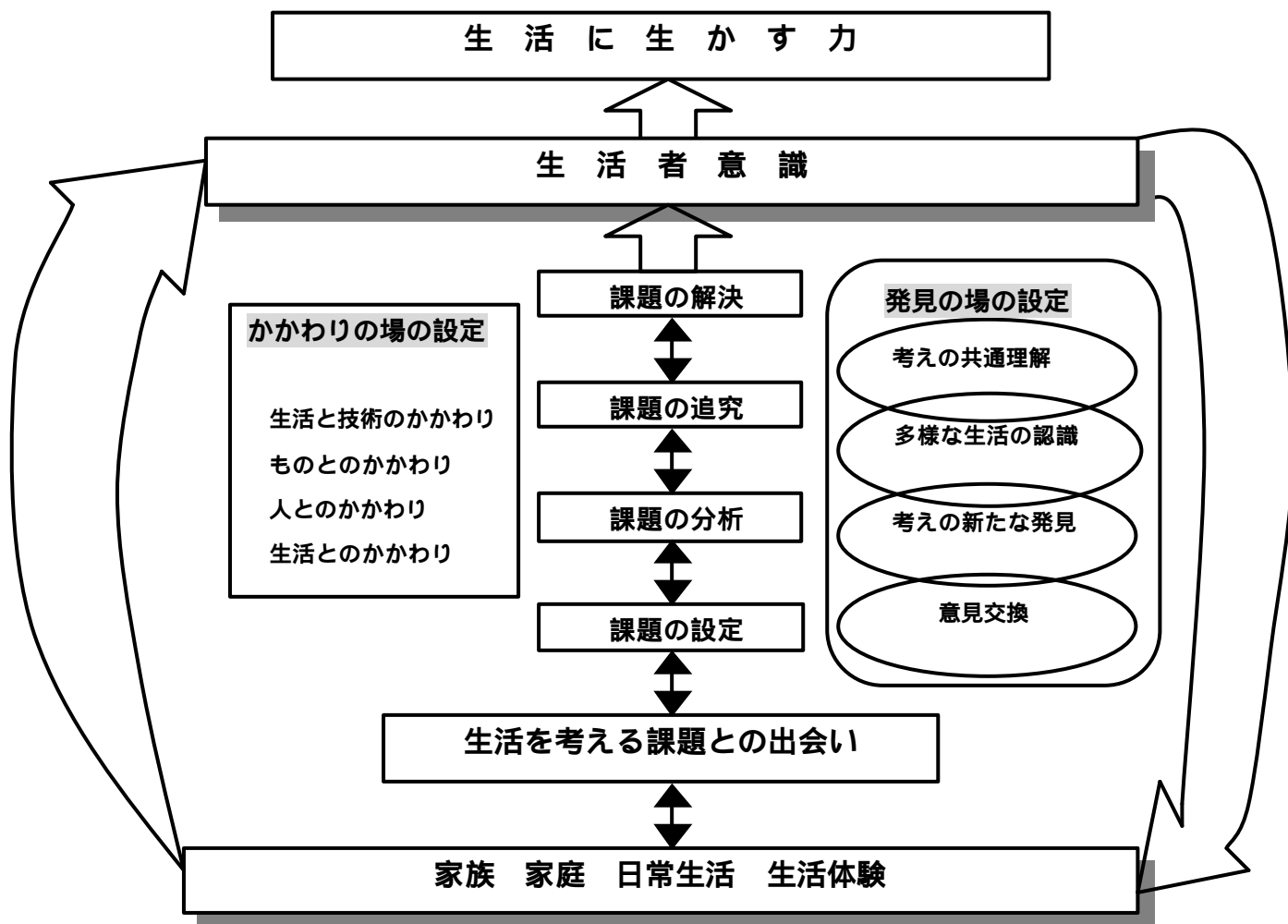


図1 生活に生かす力を育てる学習の構想図

## 4. 研究の方法

### (1) 研究の対象

実施対象

技術・家庭科家庭分野 1学年 家庭科 5学年 技術・家庭科技術分野 1学年

検証授業の期日

技術・家庭科家庭分野

第1回 9月26日(木) 第2回 10月17日(木) 第3回 10月24日(木) 第4回 11月6日(水)

第5回 12月5日(木) 第6回 12月12日(木) 第7回 1月9日(木)

家庭科

第1回 11月14日(木) 第2回 12月5日(木)

技術・家庭科技術分野

第1回 10月29日(火)

## (2) 研究の進め方

参加観察(ICレコーダーとビデオカメラによる対話と行動の記録)

授業記録の振り返り(VTRと音声テープによる授業分析)

授業考察(ワークシートと自己評価カードからの分析と考察)

以上の観察と考察をし、意識の動きを見取ることとした。

## 5. 検証授業

### (1) 技術・家庭科家庭分野 題材名 「衣服の達人をめざそう」 10時間扱い

#### 検証対象

川崎市A中学校1学年A組19名B組18名(1学級を半分に分けた少人数による授業)

子どもたちが学習を進める中で、家庭での衣生活について振り返り、周囲の人々とのかかわりを考える言葉かけやワークシートの工夫により、追究学習を通して生活者意識がどのように広がり、学習内容が次の学習や自分の生活へどこまで取り入れられるのを見取ることとした。

前題材である「安心できる住まい」の課題追究型の学習展開において、実生活に即したまとめや発表をし、生活者意識が芽ばえているAさんと、生活と学習とのかかわりを意識しにくいBさんを着目生徒として選んだ。

#### 学習構想と指導計画

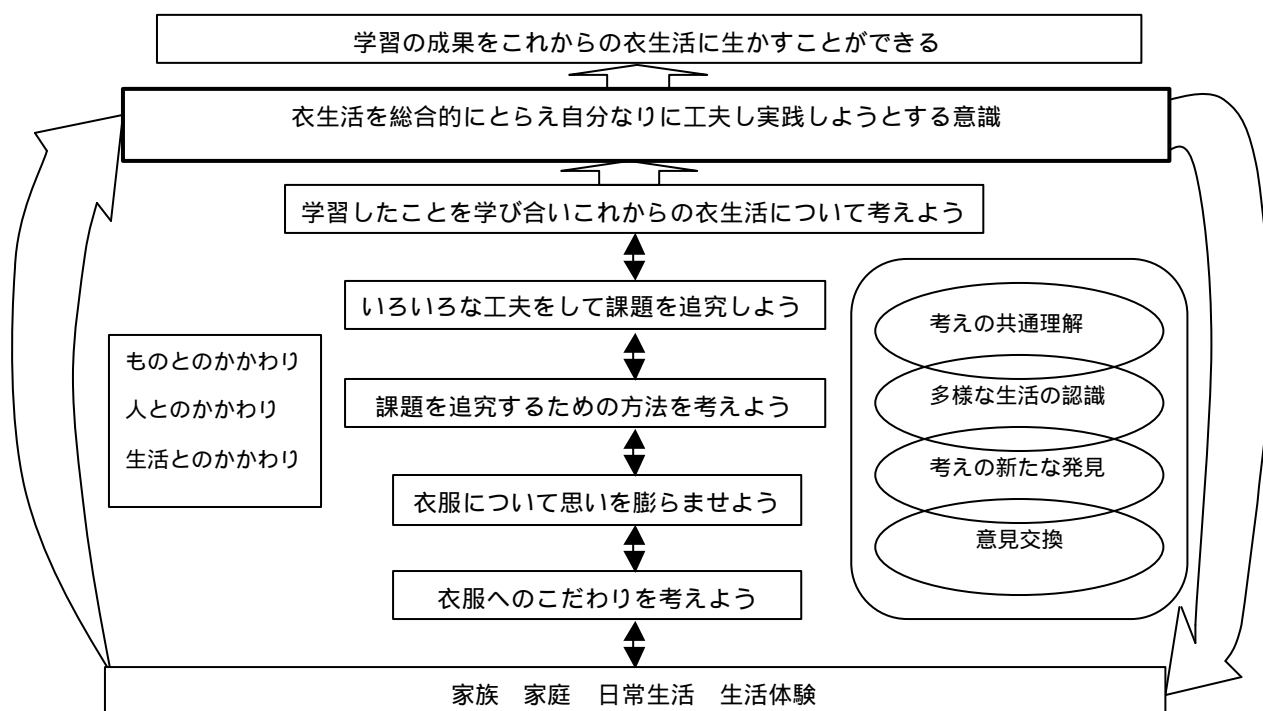


図2 学習構想図

段 階	生活とかかわる子どもの学習活動	生活者意識をはぐくむ視点	教師の助言例
課題の把握 (1/10)	(1) 衣服へのこだわりを考えよう ・いままで学習したことから衣服へのこだわりを考える ・こだわりを発表しながら分類する ・次回までに家の人にもこだわりを聞いてくる	自分の衣生活を振り返って考える  意見交換からの気づきをふまえて自分の家庭生活を見直す	・いらなくなった服を、家ではどうしていますか ・家の人は衣服をどのように扱っているか聞いてみよう
課題の設定と分析 (2/10)	(2) 衣服について思いを膨らませよう ・前回の学習や家庭での振り返りから衣生活への思いを膨らませる ・自分の生活をよりよくするための課題を見つける ・課題を追究するための方法を考える ・次回までに追究方法について、自分の周りの人々に話を聞いてくる	自分の生活にどのように生かせるかを考えた課題を発見する	・早く洗濯物を乾かすための、何か良い方法はないかな ・シャツにソースのしみが付いたときの落とし方を知っていれば家族が付けたときに、すぐその場で教えてあげられるね
課題の追究 (3/10~7/10)	(3) いろいろな工夫をして課題を追究しよう ・追究方法の見通しをもつ ・実践的な追究活動をする ・自分の生活にどのように生かせるかを考える	自分の生活を振り返りながら追究活動をする	・このズボンはこのように干せばすぐに乾きますというように、みんながすぐに実践できるように分かりやすく発表しよう
課題の整理 (8/10~9/10)	(4) 学習したことをみんなで学び合おう ・追究したことを発表し学び合う ・自分の生活にどのように生かせるかを考える	自分の生活にどのように生かすかを考えた発表をする	・発表を聞いて、これは実践できるな、家でやってみたいなとか、家の人にもすすめたいな、というものを記録しておこう
課題の実践化 (10/10)	(5) これからの衣生活について考えよう ・学び合いで取り上げられなかった課題について知る	新たな気づきを自分の生活にどのように生かせるかを考える	・この学習を普段の生活の中で意識し、できることにはかかわって欲しい

次ページからの図の意味

The diagram illustrates four methods of data collection using speech bubbles:

- A rectangular speech bubble with a tail pointing to the right: ワークシート・自己評価からの読み取り
- A horizontal speech bubble with a tail pointing to the right: 子どもの発言からの聞き取り
- Two speech bubbles, one above the other, with tails pointing towards each other: 子どもと教師の対話からの聞き取り
- Two overlapping speech bubbles, one above the other, with tails pointing towards each other: 意見交流の中での子どもの会話からの聞き取り

授業記録からの着目生徒の様子

段 階	着目生徒 A	着目生徒 B
課題の把握 (1/10)	<p>「衣のこだわり」色・柄・デザイン・値段・自分に似合う</p> <p>先生が言った「目的に合った服」はそう思った</p> <p>・自分の意見の変化や広がりが無い</p>	<p>はじめて気付き、学びました</p> <p>・家庭での振り返りから、はじめのこだわりに戻る</p>
課題の設定 と分析 (2/10)	<p>・教師や友達との会話の中から課題に気付く</p> <p>「学習テーマ」洗濯の仕方・乾き方</p> <p>自分自身のためになるし、家族にも教えてあげたい</p> <p>・今後の見通しがもてている</p>	<p>・友達のこだわりから新たな課題が生まれる</p> <p>「学習テーマ」色と汚れの関係</p> <p>・友達 S さんのアドバイスを受け入れる</p> <p>S さんの意見から、実験したい</p> <p>・自分の生活との関連まで至らない</p>
課題の追究 (3/10～ 7/10)	<p>・早くから参考書籍を発見し、必要な項目をまとめている</p> <p>先生これ全部で何時間ぐらい？まとめる時間は？この本借りていいですか？</p> <p>・家の人がやっている事と調べたことを比較している</p> <p>どんな事をしてみるの？</p> <p>ズボンを筒状に干すと早く乾くのかな？</p> <p>洗濯の何について調べてる？</p> <p>洗い方</p> <p>じゃ、干し方・乾き方をよく調べよう</p> <p>・実際にやってみて気付いた事がみんなに伝わるようにまとめ方を考えている</p>	<p>・数種の布を集め、丁寧に同じ四角を書き切っている</p> <p>・教師がさらに広がるよう投げかけるが、切ることに集中している</p> <p>・切った布に汚れを付ける</p> <p>他の汚れはいいの？</p> <p>2つだけでいい</p> <p>白や黄色の布は汚れが目立つ</p> <p>・汚れを付けた布を模造紙に丁寧に貼り付ける</p> <p>雨の日は白や黄色の服は着ないの？</p> <p>デザインで決めるから、あまり気にしないかもしれない……</p>
課題の整理 (8/10～ 9/10)	<p>・発表が聞きやすい位置に移動し、熱心に聞いている</p> <p>自分で考えたのは、家でやっていることさらに調べたことを実験してよく解った</p> <p>・しみ抜き発表に興味を示し、発表したものを見せてもらい、しみ抜きの叩き方の動作を聞いている</p> <p>今度からはいろいろな面で、服について考えてみたい</p>	<p>色と汚れの種類を実験した場によって着る服の色を考えたい</p> <p>・同じ班の人と言葉を交わしながら発表を聞き、お互いにワークシートを見ながらまとめている</p> <p>自分で調べた事では……みんなの中では、表示・トレーナーの袖などができると思う</p>
課題の実践化 (10/10)	<p>調べた干し方を家でやってみた</p> <p>目的・素材・丈夫さを考えて服を買う</p> <p>食事中にこぼしたら応急処置をする</p>	<p>・周囲と話しながら家庭での実践を思い出している</p> <p>いくつ書くの？何かある？</p> <p>ボタンが取れたり、ほつれたら、自分で直せそう</p>

## 考 察

【課題の把握・設定】 学習の導入の工夫として「衣のこだわり」を生活と結び付けて考えた。図3のように、最初は自分の生活と関連して科学的に調べる項目には至らなかった。そこで、意見交換や家族のインタビューを取り入れ考えることで、生活と関連したテーマが広がった。

着目生徒Aさんは、最初は「色、デザイン、値段」という考えをもっていたが、教師や周囲の友達との意見交換の中で自分の生活を振り返り、「洗濯の仕方、乾き方」の課題を設定した。着目生徒Bさんは、友達のアドバイスから「色と汚れ」について実験する課題を設定した。

【課題の追究】 追究活動中の新たな課題や疑問に対しては、授業時間だけでなく、周囲の友達との意見交換や家庭での振り返りから新たな発見があることを気付かせた。

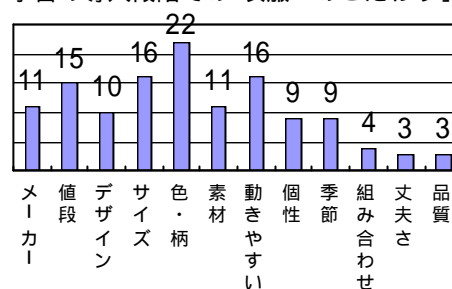
着目生徒Aさんは、友達と情報交換しながら家庭での洗濯の様子を思い出し、洗濯物の干し方について調べたことと家庭での干し方を比較するなど常に自分の生活と関連させながら進めていた。また、発表を聞いた人が生活で実践しやすいように、家庭で実験した干し方による乾燥時間の違いについての結果を分かりやすくまとめていた。着目生徒Bさんに対しては、課題が実験だけに終わらずに、実際の生活の中で服に汚れが付いたらどうしたらよいかに気付くような言葉かけをした。

【課題の整理】 発表する項目の中に、「自分の生活にどう取り入れるか」を入れるように助言し、発表を聞く際には自分の生活に取り入れられると思う内容についてメモを取るように伝えた。

着目生徒Aさんは、発表が聞きやすい場所に自分から進んで移動し、友達の発表内容にも興味を示しながら熱心にメモを取っていた。特にしみ抜き発表に興味を示し、発表した画用紙を見ながらしみ抜きの動作を聞いている姿も見られた。ワークシートの記述から、発表を聞く中でいろいろな考えがあることに気付き受け入れていることを読み取ることができる。着目生徒Bさんは、同じ班の友達と言葉を交わし、お互いのワークシートを見ながら楽しく発表を聞いていた。他者の発表からの学びについては、「～ができそうだ」との気付きを表わしていた。

発表を聞く中で他者の意見を理解し、自分の生活にどう取り入れるかについては、図4のような状況が見られた。自分の生活体験をもとにしたAさんの発表について、他の子どもたちはすぐに実生活で活用できるととらえ、実践したい項目として具体的に挙げている。しかし、Bさんの発表について、他の子どもたちは生活に活用できるとのとらえが少なく、発表内容がそのまま記述されている。これは、課題の設定段階で「汚れたらどうすべきなのか？その方法は？」といった、自分の生活と関連して考えさせる手立てとなる言葉かけが不足したため、課題が今後の生活に実践できるような具体的な項目へと広がらなかったと考える。

学習の導入段階での「衣服へのこだわり」



意見交換や家族のインタビューから考えた学習テーマ

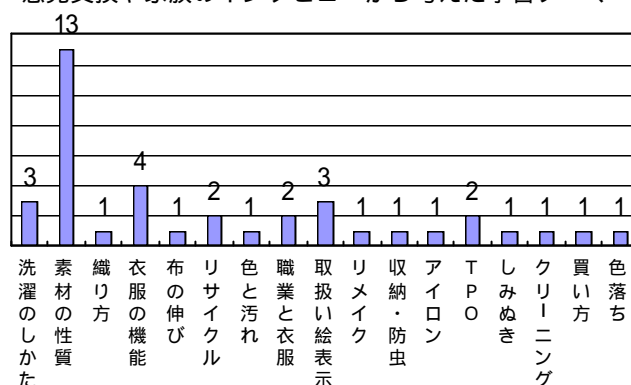
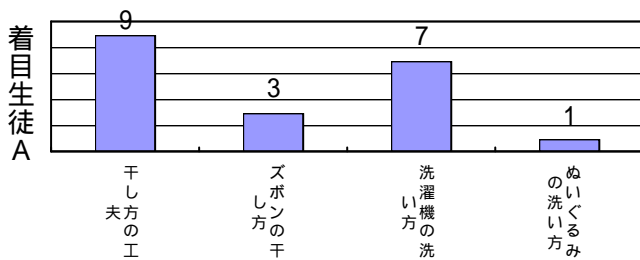


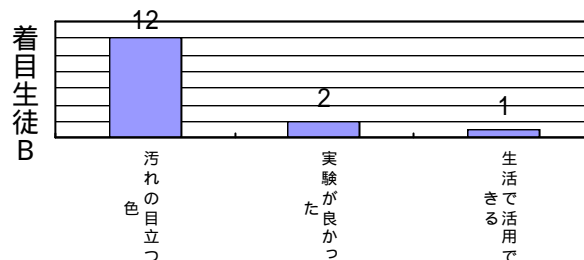
図3 衣生活学習テーマの教師の助言による変化





【発表から学んだこと】

- ・服を干すときの方法が分かった
- ・洗う物によって洗濯機を使い分けることを知った
- ・実験の結果を分かりやすく話していた



【発表から学んだこと】

- ・汚れが目立つ生地と色が分かった
- ・いろいろな生地が貼ってあり、まとめ方がきれいだった

図4 着目生徒の発表からの学び

【課題の実践化】 授業だけでなく実生活でも実践し、今後の生活に生かそうという意識がどのくらい見られるかについて、具体的な項目を挙げさせた結果、図5のように多くの生活実践項目が出され学んだことを実生活に生かしていることが分かった。教師は、発表内容で取り上げられなかった衣生活の中で必要な知識や技術に関する内容について、前回の住生活の学習内容と関連させて補足し説明した。衣生活は独立しているのではなく食生活や住生活と関連が深いことを示し、家庭科の学習は生活と関連していることにもふれ、さらに学習したことを普段の生活で生かして欲しいことを伝えた。

着目生徒Aさんは、学習のまとめのワークシートの中で、今回の学習を総合的にとらえ、今後の衣生活を豊かにしていくための方法まで考えた記述をした。教師が常に生活を意識するように指導することで、学習と生活を関連して取り組むことができると考える。

着目生徒Bさんは、衣生活に関する生活での実践はあるが、学習の必要性もてる課題が見つからなかったため、今後の生活に役立てようという意識が育つまで至らなかった。Bさんが学習したことを生活で実践しようという意欲や学習の必要性をもち、生活と学習が関連して考えられるようになるためには、課題の把握段階で教師が分かりやすくアドバイスし、生活に直結する課題となる教師の言葉かけや授業展開の工夫が必要であることが分かった。

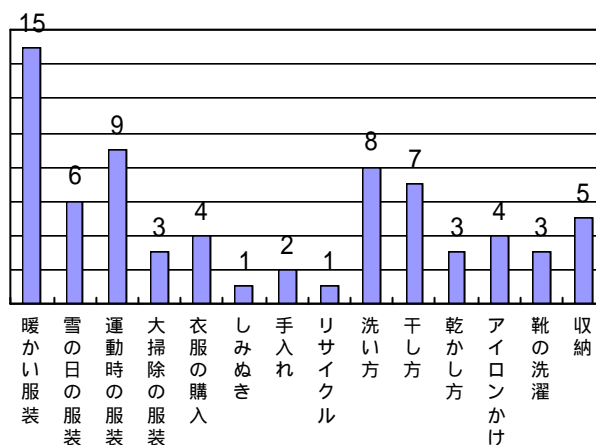


図5 学習する中で自ら実践したこと

この検証授業校では、1クラスを半分に分け技術分野と家庭分野の授業を実施している。少人数の学習は、学習場面に合わせて容易に授業形態を変化することができ、教師の助言が行き届き、学習意欲の高まりや学習の定着が図られやすいと言われる。今回の授業においても、生徒一人一人の発言や表情に応じた教師の助言など、効果的な場面を多く見取ることができた。

また、課題追究学習が積み重ねられる中、Aさんのように自ら発見した課題の解決に向け、丁寧にまとめ、学習を生活に結び付け友達に分かりやすく伝えられる子どもが増えてきていることも見えてきた。さらに、発表に終わらず学び合いの時間を十分に確保する大切さも分かった。

(2) 家庭科 題材名 「片付け隊大作戦」 9時間扱い1コマ30分

検証対象

川崎市B小学校5学年B組29名

子どもたちの実践を家族はどのように認め、それが子どもたちの家族の一員であるという意識や、今後の生活での継続した実践にどのようにつながるのを見取ることとした。

日頃から家庭の仕事を自分なりに考えて取り組んでいるAさんと、家庭を見つめてはいるが、家庭の仕事に対して自分の役割として意識していないBさんを着目児として選んだ。

学習構想と指導計画

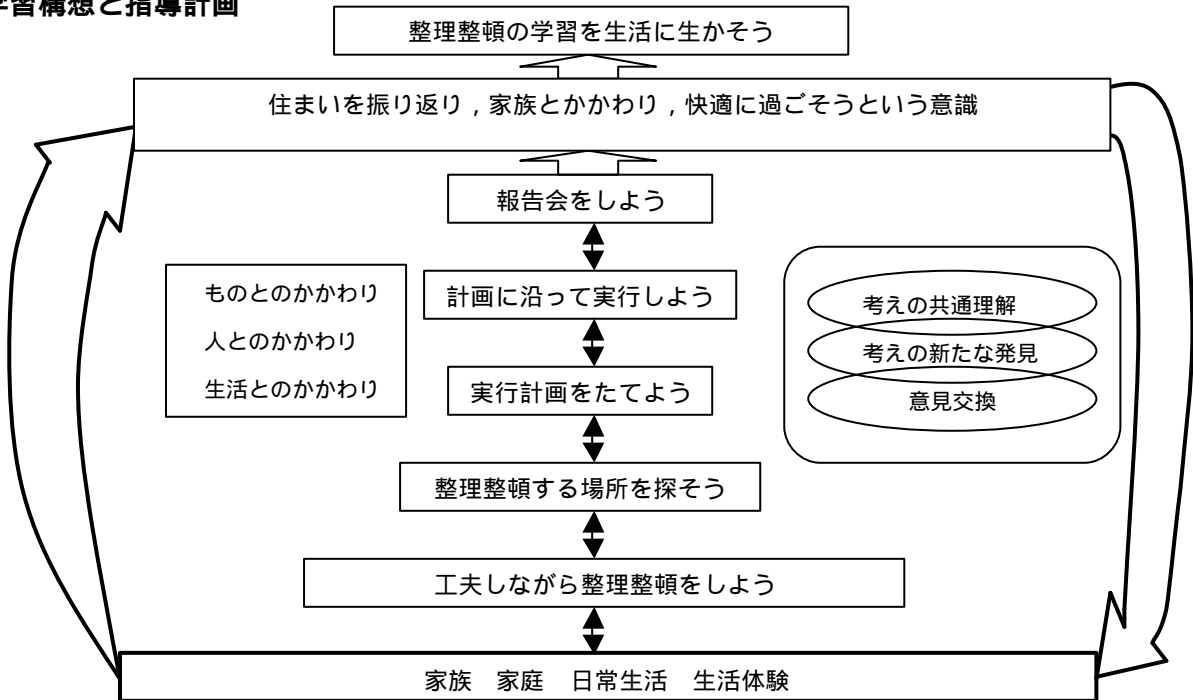


図6 学習構想図

段階	生活とかかわる子どもの学習活動	生活者意識をはぐくむ視点
課題の把握 (1/9 ~ 2/9)	(1) お道具箱を整理してみよう ・お道具箱の中味の様子から使い心地を考える ・自分なりに工夫しながらお道具箱を整理する ・感じたこと、気付いたこと、工夫したことを発表する	学校での身の回りの生活を振り返って考える 自分の家の中で同じような場所はないか考える
課題の把握 (3/9)	(2) 家の中を見つめてみよう ・自分の家の中を思い浮かべ、使いやすいところや不便なところを考える ・次回までに家の中を観察したり家族に話を聞いてくる	意見交換からの気づきをふまえて自分の家庭生活を見直す 家庭の中が整えられているのは誰が行っているのかを考える
課題の把握 (4/9 ~ 5/9)	(3) 整理整頓をしたいところはどこかな ・前回の学習や家庭での振り返りから、家の中で整理整頓したいところや、おすすめのところを発表する	友達の発表を聞く中で、自分の生活をよりよくするための課題に気付く
課題の設定と分析 (6/9)	(4) 整理整頓の実行計画を立てよう ・整理整頓をするための方法を考える	自分の生活をよりよくするための追究方法を考える
課題の追究	(5) 計画に沿って実行してみよう ・家庭での実践	解決するための実践の中で、自分の生活の人や物とかかわりに気付く
課題の整理 (7/9 ~ 9/9)	(6) 報告会の準備をしよう ・実践結果をまとめ、発表のしかたを工夫する (7) 報告会をしよう ・家庭での整理整頓の実践を発表し学び合う ・発表内容を参考にして、冬休みへの課題をもつ	自分の生活にどのように生かせるかを考えた発表をする 子どもの実践を家族はどう見つけ、子どもはどう感じているのかを発表させる
課題の実践化	(8) 学習の学びを生活に生かそう	自分の生活をよりよくしていこうとする思いを膨らませる

## 授業記録からの着目児の様子

段 階	着目児A	着目児B
課題の把握 (1/9 ~ 2/9)	<p>必要なもので、ボンダが入っていなかった 使い終わったら、あった場所に置くように気をつけている</p> <p>・整理の大切さを理解している</p>	<p>出せない 苦しい よく使うものを手前にした</p> <p>いらぬ物もいっぱい入っている……</p> <p>・ガムテープの輪の中に細かい物をまとめている ・自分の部屋・テレビの周辺を気にしている</p>
課題の把握 (3/9)	<p>玄関・たんすの中・リビングなど家族から取材をしている</p> <p>・家庭の様子をよく振り返っている</p>	<p>テレビの上は誰が片付けるの？</p> <p>気付いた人がお母さんに言う……</p>
課題の把握 (4/9 ~ 5/9)	<p>玄関は、はきたい靴がすぐはけるようになっている リビングの本がちらばっている</p> <p>・友達の発表を聞き、参考にしている ・家庭での工夫に気付いている ・自分の気になる所と課題が結びついている</p>	<p>自分の部屋の中がぐちゃぐちゃ ビデオがちらかっている</p> <p>自分の部屋はぐちゃぐちゃでぜんぜん直らない どう片付けたらよいか分からない</p> <p>・どのように整頓したらよいか気付いていない</p>
課題の設定と分析 (6/9)	<p>リビングにちらばっている本を全部本棚へ本を全部出し、種類ごとに本を分ける あまり読まない本は上の段に入れる</p> <p>・見通しをもって、解決の方法を具体的に考えている</p>	<p>ソファの上にいるんものがある</p> <p>どんなもの？</p> <p>ゲーム、服、洗濯物とか</p> <p>・家庭の様子を思い出すことで課題を見つける</p>
課題の追究		
課題の整理 (7/9 ~ 9/9)	<p>きれいになってよかった……</p> <p>整理し終わった後は気持ちがいい これからも進んで整理したい 母より「これからもよろしくね」</p> <p>・自分でも満足し、家庭でも認められる</p> <p>友達もいろいろ工夫をして片付けていることが分かった 今後、友達の箱を使って整理するアイデアを利用し、机の中を掃除してみたい</p>	<p>発表の準備のための絵に、黙々と取り組む かんたんだった 母によるこぼれた</p> <p>・発表の代表になり、人の話を聞かなくてはという気持ちになる</p> <p>先生、どういうこと言えばいいの？</p> <p>友達の発表の中にいいアイデアはあったが、自分がやってみたいことはない 自分としては机の上もやってみたい</p>
課題の実践化		

## 考 察

【課題の把握～追究】 着目児Aさんは、日常生活の身の回りの整理について、自分なりに考えて行動している。課題の把握段階においても整理の大切さを自覚していることが分かる。さらに学習を進める中、家庭の状況を細かく観察し玄関の靴の整理などの家庭内の生活の工夫に気付いている。課題の設定場面においては、友達の発表からの新たな気付きを参考に、本棚の収納の工夫など、自分で実践できる生活技術を考えて課題を追究していた。着目児Bさんは、課題と自分の生活を関連させて考えることに時間がかかったが、教師が根気よく対話を続けながら、家庭の様子を思い出させたことで、整理されていないソファを自分の課題としていた。

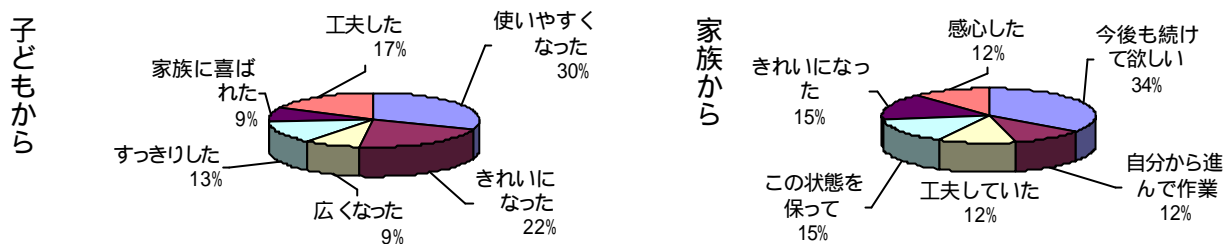


図7 身の回りの整理実践からの子どもと家族の感想

整理実践について家族からの感想と子どもの感想を見ると、図7のように家族に子どもの行動が認められたことで、子どもは達成感や成就感を味わうことができていることが分かる。また、学習したことを実践したことで学習に対する楽しさや喜びが生まれている。

【課題の整理】 着目児Aさんは、本棚の整理に意欲的に取り組んだ。その結果、「きれいになってよかった」という、自分の生活が快適になったことへの喜びと同時に、生活の中での整理の大切さを実感していた。さらに、母親からの感想も素直に受け止め、家庭でも認められたことが自信となりその後の冬休みの取り組みへとつながっていた。着目児Bさんは、家庭での整理実践に取り組み母親に褒められたことから、家庭での自分の役割があることに気付いていた。自分の実践を他の人にも伝えたいという気持ちをもって、課題の整理段階では意欲的にまとめていた。発表内容について繰り返し言葉かけをし振り返らせることで、現在の家庭の様子からの新たな課題を発見していた。

【課題の実践化】 子どもたちは再び冬休みに家庭で整理実践に取り組んだ。子どもたちの感想から実践を通して整理実践の苦勞を実感しているだけでなく、家族とかかわりながらの実践の中で家族に対する感謝の気持ちをもったり、自分の生活の中で整理実践が必要であることを感じ、今後も継続して実践したいという意識が生まれていることが図8の子どもたちの感想から分かる。

同様に、子どもたちの活動に対する家族からの感想をまとめてみると、家庭での実践を受け入れ家庭の仕事にかかわることを歓迎していることが分かる。このことから、学習と生活を結び付け家庭で実践し生活に生かす力にするためには、家庭科のねらいや身に付けて欲しい力について、家庭に理解

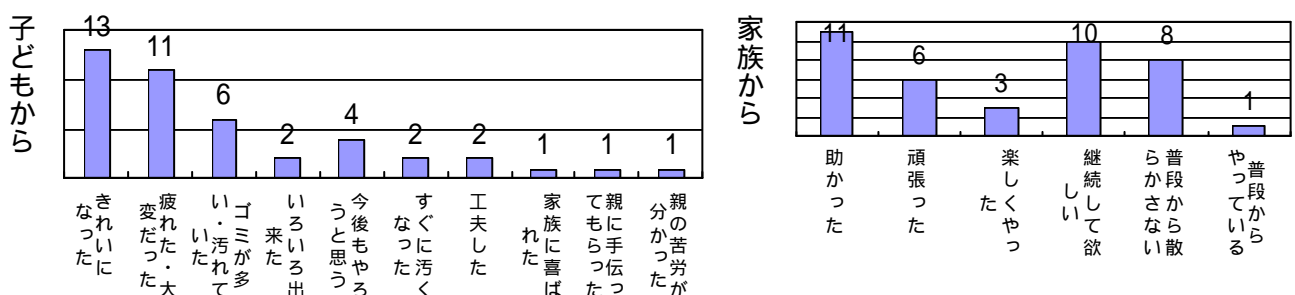


図8 冬休み中の家庭での整理実践からの子どもと家族の感想

してもらうための日頃からの投げかけが大切であり，教師と子どもと家庭とのかかわりが重要である  
と考える。

### (3) 技術・家庭科技術分野 題材名 「生活に役立つものづくり」 30 時間扱い

検証対象 川崎市C中学校1学年C組 39名

生活の中での技術の果たす役割やものづくりの意義，作る人の思いを理解する学習を通して，製作したものが実生活で役立って欲しいと考えた。

そこで，ものづくりの課題の設定段階における学習展開を工夫することにより，自分の生活をよりよくするために必要なものを考える，子どもたちのものづくりへの思いと追究活動への意欲を見取ることとした。

#### 学習構想と指導計画

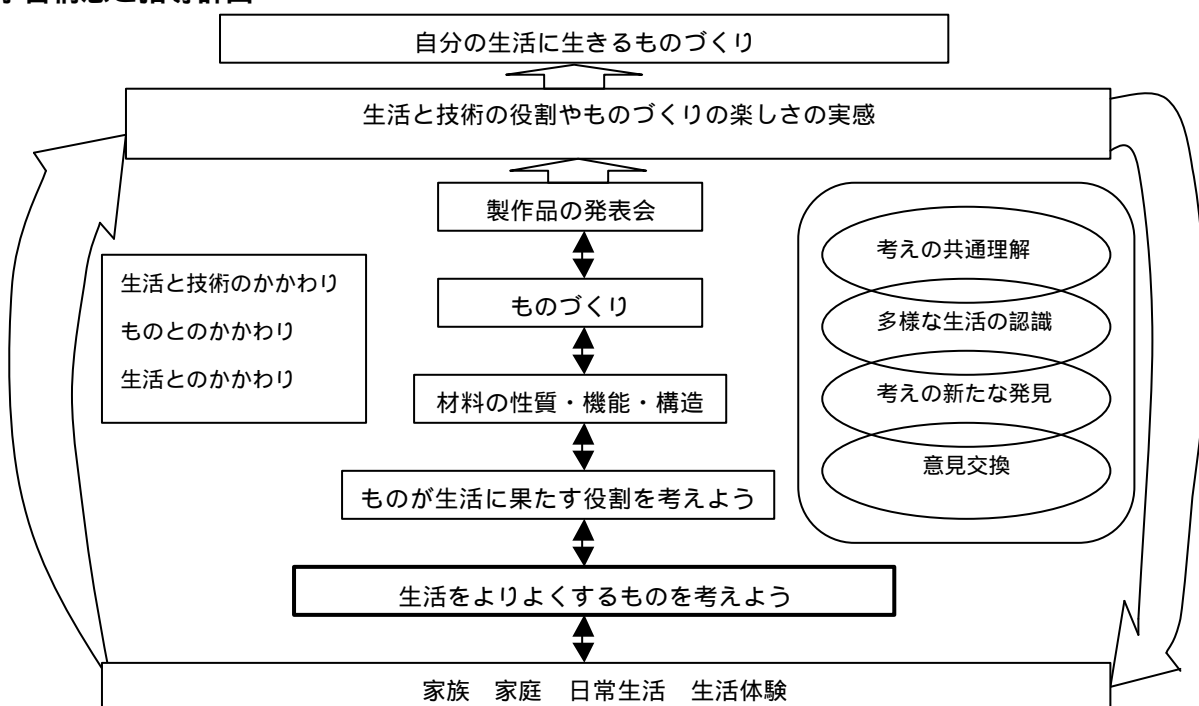


図9 学習構想図

段階	生活とかわる子どもの学習活動	生活者意識をはぐくむ視点
課題の把握 (1/30～2/30)	(1) 技術と生活について ・生活の中の技術 ・環境，エネルギー資源とのかかわり	身の回りの技術を振り返り，自分の生活との関係に気付く
課題の設定 (3/30)	(2) 生活をよりよくするものを考えよう ・ものづくりの良さとは何か ・何を作ろうか考える ・自分の生活にどのように生かせるか考える	自分の生活に生かせるものを想定し，自分の生活に役立つものづくりとなる課題を考える
課題の分析 (4/30～8/30)	(3) 材料の性質や機能・構造について ・材料の性質や特徴 ・機能，構造 ・製作図，製作工程表	
課題の追究 (9/30～29/30)	(4) 生活をよりよくするものづくり ・材料取り～仕上げ ・製作の見通しをもつ	生活に生かすものを作るために必要な課題を発見し，自分で追究することができる
課題の整理と実践化 (30/30)	(5) 製作品の発表会 ・作品と作品づくりを通して得たことを発表し 学び合う	製作したものに対する感想や意見を発表する 製作活動を通して身に付けた技術と，自分の生活について考える

授業記録から 課題の設定(3/30) 「生活をよりよくするものを考えよう」

教師の働きかけ	子どもの様子
<p>教師の家庭にある手作り品(写真)の例示</p> <p>市販品と手作り品の良さを考える</p>	<p>・真剣に見ている</p> <p>デザインが悪い</p> <p>自分で作るより安い</p> <p>どうい場合？</p>
<p>前年度製作した二年生からの「ものづくり」についてのメッセージ紹介</p> <p>デジタルカメラで撮影したものをOHPで紹介</p> <p>【上級生からのメッセージの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうしてこれを作ろうと思ったのか</li> <li>家ちょっとした小物入れがなかった</li> <li>・作る前の気もち</li> <li>本当に完成するのか心配だった</li> <li>・作っている最中の気もち</li> <li>とても楽しかった</li> <li>・完成した時の気もち</li> <li>早く親に見せたかった</li> <li>・現在使用してどう役立っているか、また愛着はどのくらいあるか</li> <li>部屋のインテリアとして役立っている</li> <li>作って良かったと思う</li> </ul>	<p>【市販品】すぐ手に入る・完璧なボディ・安く買える・見た目がよい・自分で作れないものがある</p> <p>【手作り品】愛着がある・世界に一つ・手作りのぬくもり・作る楽しさ・材料の再利用ができる</p> <p>・真剣に聞いている</p> <p>・作りたいという思いが広がる</p> <p>【参考になったこと】できあがった所を想像して作った・使えるものがよい・置く場所を考える・できた時の喜びがある・それぞれ思い入れがある</p>
<p>何を作るか決まっていな人は</p> <p>家の中ウオッチングや家族会議をしましょう</p>	<p>【自己評価から】いろいろな考えをもつことができた・身近な生活から考えることができた</p> <p>【感想から】自分の机の上を整頓する棚を作りたい・先輩の言葉が心に残った・もの作りのポイントが分かった</p>

考 察

授業の導入では、子どもたちが自分の家庭を振り返る手立てとなるように、教師が自分の家庭で有効活用している手作りの作品を例示した。また、市販品と手作り品のそれぞれの良さを考えることから生活を振り返らせた。さらに、生活に役立っている身の回りのものについての話し合いを通して生活の中でのものの役割や活用方法を気付かせた。

ここでは、新たな手立てとして子どもたちに身近な上級生のものづくりの学習経験のメッセージを紹介した。また、製作し完成に至るまでの思いや、一年経過した現在でも作品を使用している姿、作品に対する愛着心などについて、子どもたちが自分のこととしてとらえやすいように具体的な写真や言葉で表現した。これらを聞くことにより、これからのものづくりの学習に期待をもつことができた。さらに、ワークシートの記述からも、自分も長く生活に役立つものを作ろうという製作学習への意欲が生まれていることを読み取ることができた。

そして、具体的な製作品の決定に当たっては、自分の身の回りを振り返って考えるだけでなく、家庭での話し合いの中で新たな発見があることを伝えた。

今回、生活に役に立つものを作ろうという学習に対して、子どもたちがどのように感じ、どのようなしたいと思っているのかを知るために、ワークシートに具体的な項目を挙げて記述させた。子どもたちが作りたいものとしては、図 10 の「本棚」「机上整理棚」など、自分の生活から考えた具体的な項目が出された。また、製作に当たっては、「長く使いたい」「丁寧に作りたい」などの生活に長く役立てたい思いがあふれていた。さらに、これからの製作学習「安全に」作りたいということも記述していた。

## 研究のまとめ

### 1. 研究の成果

今回、子どもたちの生活に生かす力を育てるための教師の意図的な働きかけは以下の3点である。それは、家庭科では家族とのかかわり、技術・家庭科技術分野ではものや技術が実際の生活に果たす役割について理解させること、そして家庭分野では学習と生活を関連して考えさせるための教師の助言の在り方である。

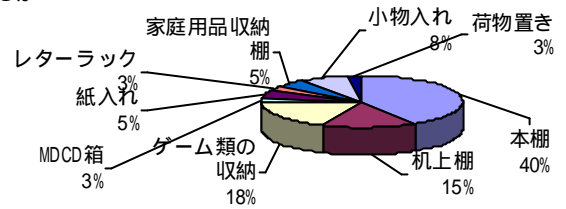
家族とのかかわりでは、家庭での実践を通して生活を快適にすることの大切さを実感していた。さらに、家族からの励ましの言葉から家族の一員としての役割を実感し、次の学びへの意欲へとつながっていた。

また、ものづくりの学習の導入場面においては、ものづくりの意義やものづくりへの思いについて時間をかけて意識させたことにより生徒の心が揺さぶられ、課題設定ばかりでなくものづくりの製作場面での意欲が高まっていた。そのため、課題設定から追究への流れがスムーズであった。

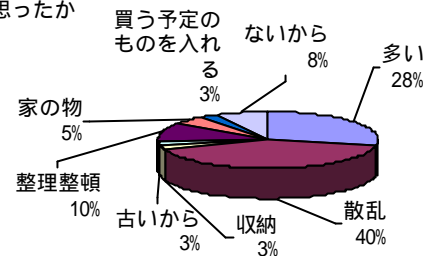
さらに、教師の助言の在り方に関しては、子どもたちが学習の中で生活に目を向け自分にかかわる周囲の人々との意見交流の中から、新たな気付きや学習に広がりが見られた。また、自分の生活を振り返ることで学習内容に生活実感が生まれた。発表し学び合うことで多様な考えに気付き、「自分もやってみよう」という気持ち生まれ、生活に生かす学びの第一歩となった。常に生活を意識しながら学習を進めていた着目生徒は、快適な生活を実感しながら、学びを自分の生活で繰り返し実践していた。

以上のように、生活に生かす力を育てるための教師の意図的な働きかけをすることにより、子どもたちの課題が生活を意識したものとなり、自ら主体的に学びを実感し一連の学習活動を通しての成就感や達成感をもつことができた。この学習を着実に積み重ねることで子どもたちは学ぶ意味を理解し、学ぶ意欲や学びを生活に生かす力につなげることができると考える。

何をつくるか



どうして作ろうと思ったか



作る前の気持ち

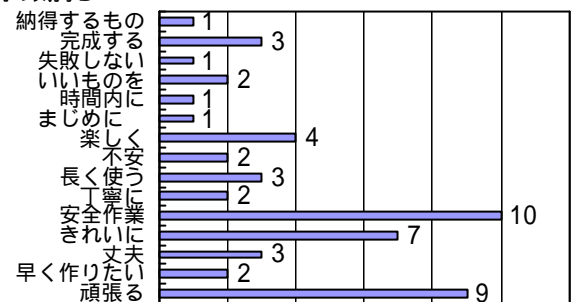


図 10 製作学習への意欲

また、研究会議の中で課題追究学習についての指導法の協議を重ねていくことで、教師自身の指導方法を見直し、指導法を改善する力が付くことも分かった。

## 2. 今後の課題

実際の生活を意識した課題追究学習を展開することで、子どもたちが学びの意味を理解している様子が見られた。そして、課題との出会いから発表に至るまで、ねらいに即したワークシートなどを使用して細かい見取りを行うことで、子どもをつまづきや学習状況を知ることができた。また、教師が適切な助言をし追究学習を進める中で、子どもたちは学びの楽しさを感じている姿が見られた。

しかし課題となることは、学習したことを生活で実践しようという意欲や学習の必要性をもちにくい子どもに、生活と学習を関連させて考えさせる授業の組み立てや手立てである。この解決のためには、子どもが学習を通して生活に必要な知識や技術を身に付けることの必要性を実感できる、題材の指導計画と評価計画を考える必要がある。また、教師自身が授業を振り返る中で、実生活と結び付けた課題が設定されるための指導法について、さらなる検討が必要である。

今後も、小学校家庭科、中学校技術・家庭科技術分野、家庭分野の関連を図りながら、学習が子どもたちの実生活に生きるための課題を追究していく学習の在り方について研究を深めたい。

最後に、研究を進めるにあたり適切なお助言をいただきました先生方、研究にご支援、ご助言くださいました校長先生はじめ学校教職員の皆様に、心より感謝し厚く御礼申し上げます。

### 【参考文献】

- |  |       |
|--|-------|
| 日本家庭科教育学会 『家庭科の21世紀プラン』 家政教育社  | 1998年 |
| 『小学校学習指導要領解説 - 家庭編 - 』 文部省   | 1999年 |
| 『中学校学習指導要領解説 - 技術・家庭編 - 』 文部省  | 1999年 |
| 中村祐治 『中学校技術・家庭科 技術分野題材集』 教育出版  | 1999年 |
| 佐藤文子 川上雅子 『家庭科教育法』 高陵社書店   | 2001年 |
| 内藤道子他共著 『生活の自立と創造をはぐくむ家庭科教育』 家政教育社   | 2001年 |
| 日本家庭科教育学会 「児童・生徒の家庭生活の意識・実態と家庭科カリキュラムの構築 - 家庭生活についての全国調査の結果 - 」 日本家庭科教育学会編 | 2002年 |
| 乗本秀樹 『家庭科に学ぶ生活論と教育論 - 生きる力の周辺 - 』 家政教育社                                    | 2002年 |

### 【指導助言者】

- |                                   |       |
|-----------------------------------|-------|
| 千葉大学教授                            | 佐藤 文子 |
| 上越教育大学教授                          | 滝山 桂子 |
| 新潟県立教育センター指導主事                    | 高地 裕子 |
| 川崎市立小学校家庭科研究会長(川崎市立東小田小学校長)       | 本間 智子 |
| 川崎市立中学校教育研究会技術・家庭科部会長(川崎市立生田中学校長) | 引田 克幸 |
| 川崎市立中学校教育研究会技術・家庭科部会長(川崎市立井田中学校長) | 渡邊 洋子 |
| 川崎市教育委員会学校教育部指導主事                 | 垣地 史朗 |
| 川崎市教育委員会学校教育部指導主事                 | 中島みどり |
| 川崎市総合教育センター研修指導主事                 | 吉田 和江 |